

語彙力を育てる、日常的な指導の工夫

語彙を身につけさせるために効果的な継続指導の例をご紹介します。
 新版教科書では、語彙指導に直結するコラムや小单元が、
 これまで以上に工夫して配置されています。
 これらを効果的に活用して、より良い学びを作りましょう。

低学年では、 常に楽しく！

低学年の指導は、楽しさが大切です。
 クイズやゲーム的な手法を取り入れ、
 知らず知らずに言葉にふれるようにし
 ましょう。

▼おはなしカルタ遊び

学習活動の一つとして、カルタ作り
 をします。言葉を工夫して、リズムの
 ある文を考えます。

① いおんの
 赤ちゃんて
 あまえんぼう
 ② まうまは
 はやく立って
 はしりだす

▼一年〇組あいうえおうた

「はじめの文節と次の文節の頭に、
 あいを使って、あいうえお につ
 なが」等の約束が言葉探しにつながり
 ます。

あいさつ いいこえ あいうえお
 かきかた きちゃんと かきくけこ
 さいふを しまって さしすせそ

他には、「しりとり」などの活動を行
 ってもよいでしょう。

中学年では、 発見を大切に！

例えば、「春」という漢字は、「暖かく
 なって、三人が日なたぼっこしている」
 と覚えるといいんだ」などと、自分で
 気づいたことは忘れません。中学年
 では発見を大切にします。

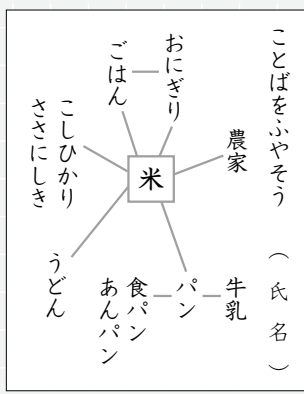
▼ことわざ集め

国語辞典や漢字辞典の学習が入って
 くるときです。四字熟語や慣用句等に
 もふれさせましょう。

・ 一か八か
 ・ 二階から目撃
 ・ 三尺下がって
 数が入っている
 ものがあって…

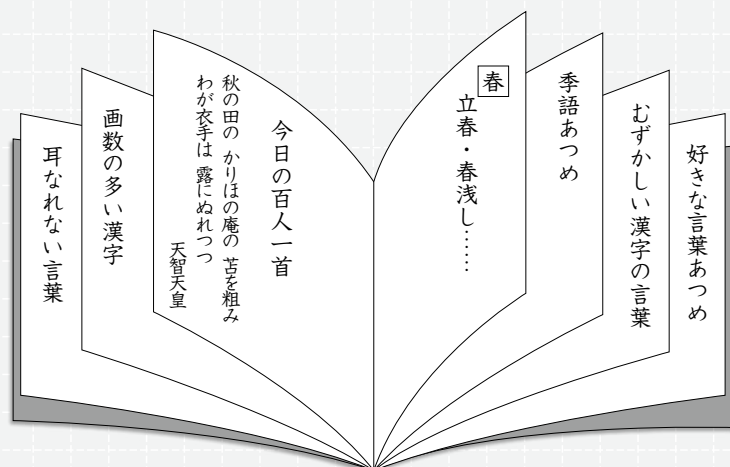
▼ことばマッピング

言葉の連想ゲームです。お題を与え、
 五分位で、言葉の連想をして競います。



高学年では、 個々の工夫を認めて

高学年では、「言葉ノート」や「言
 葉コーナー」をノートに作らせ、自分
 なりに興味をもった観点でノート作り
 をさせましょう。



語彙力、意識して 育てていますか？

Q 「大造じいさんとガン」で、全文通
 読の後、感想を聞いてみたんだ。
 「残雪をどう思いますか？」
 「すうう」
 「大造じいさんをどう思いますか？」
 「すうう」
 一体、何がどうすううのかわから
 なくて。「詳しく教えて」と促すと
 「えーっ、うまー言えない」といふ言
 葉が戻ってきて……。

Q



A

「素早く正答を言わなくてはならない」。
 こんな風潮が授業全体に蔓延していないで
 しょうか。子どもたちに、経過よりも結果
 を重視する学び、誤答はいけないという雰
 囲気、さらに早く正答を出すことだけを要
 求していませんか？
 子どもたちに育てたいことは、自分の考
 えや思いを、未熟でも良いから、適切な言
 葉で話したり書いたりして伝えられる力
 です。ところが、言葉を知らないために、思
 いがうまく伝えられなかったり、言葉が見
 つけられなかったりするために、考えること
 まで避けてしまうことがあるようです。
 今回は、子どもたちに語彙を身につけさ
 せる、日常的な指導の工夫を考えてみま
 しょう。



一人ひとりに、より豊かな言葉を！

元新宿区立西戸山小学校教諭
 やすだきょうこ
 安田恭子

子どもの日々はトラブルが多い。そのきっかけは些細な言葉のやりとりからである。「体にさわるな」「さわってない」「うるさい」に始まり、「にうんだ」「にうまれた」とか、心に傷つくような言い合いが続く。語彙が少ないと言葉が出ないから、手や足が出る。物をかくす、悪口を言い合うというふつなことが起これば、楽しいはずの学校生活が負担になる。トラブルの行き着く先が、荒い言葉が飛び交うというのでは悲しい。

ところが、トラブルが起これども、問題が大きく広がらない学級がある。むしろトラブルを契機に互いに自分を振り返ったり新しい解決方法を探したりするほつに軸足を置く学級である。その違いは、教室の雰囲気にくもりがあるかどうかである。それには、子どもたちに語彙の力があるかどうか、重要なになってくる。

語彙の力は、人間の生き方につながる。鉛筆一本でも、「なくなつた・見あたらない・盗られた・迷子になつた

語彙が広がる 教室づくり

語彙が広がる 教室づくり・授業づくり

よし なが こう し
京都女子大学教授 吉永幸司

語彙に関心をもたせる 国語授業づくり

などのうち、どの言葉を選ぶかその後の展開が変わってくる。
語彙を意識して指導するということとは、考える力、生きる力に響くとも言えるのである。

語彙力を高める国語授業をするに関心は高まる。手軽な方法は、しりとりや言葉集めなどがある。少し欲張って生きる力に響かせようとするなら、文章を読む、感想を述べる、意見を発表するという学習活動の節々に散らばる語彙に光を当てることがである。

国語の教科書は語彙の宝庫である。例えば、三年下巻の「ちいちゃんのかげおくり」(あまんきみこ)では、お父さんが、つぶやきました。
「かげおくりのよくできそうな空だなあ。」

「えっ、かげおくり。」
と、お兄ちゃんがきき返しました。
「かげおくりって、なあに。」
と、ちいちゃんもたずねました。

四年にわたって連載しました「教師力講座」は、今号が最終回となります。長い間、ご愛読ありがとうございました。

授業で「よい言葉・美しい言葉」を探したり見つけたりする活動をさせる。そうすると、教材を丁寧に読む子になる。そして、「初めて知つた言葉」「覚えておきたい言葉」「いいなと思える言葉」を見つけていく。感想を述べるときも、「楽しかった」「おもしろかった」と言つことで満足しなくなる。「これでは自分の今の気持ちを表していない」と考え、違う言葉を探す。語彙力のある子は、多くの本を読む、国語辞典を調べる経験が多い。そして、自分の言葉に責任をもつようになる。手間はかかるが、丁寧に語彙と向かい合う授業づくりをすることが大事である。

語彙力を高める 4つの視点

1 数をふやそう

語彙力といったとき、やはり大切なのは「多くの言葉を知る」ということが挙げられます。同じ「嬉しさ」でも、今の気持ちは「ほほえんだ」なのか「飛び上がって喜んだ」なのか等を選べるくらい、言葉の数を増やしたいものです。

2 興味の喚起

語彙力を高めるには、外からの刺激も大切ですが、何よりも一人ひとりが言葉に関心をもつことが大事です。『二度あることは三度ある』と『三度目の正直』の違いは?」等、興味をもつきっかけをどんどん作ってあげましょう。

3 使ってこそ

いくら言葉を知っていても、それだけでは絵に描いた餅です。その言葉を文章に使ったり、知った言葉を使って、友達に説明したりする機会をつくって、その言葉を本物にさせましょう。

4 継続は力

いくつかの手立てを紹介しましたが、そのときだけの学びでは定着しません。繰り返し、飽きさせないように、手を変え品を変え、1週間、あるいは1か月ごとに等、継続してこそ本物の力になります。



私の師が話された言葉です。
「おいしいお料理をいただいたとき、あなたはどんな言葉を思い浮かべるの?『おいしい』『いいお味』『あー幸せ』だけでは、残念ね。他にも『この味は私の好みにぴったり』『このお料理の作り方を教えて』『こんなにおいしいものがいただけで、あなたの友達でよかった』等、たくさん気持ちを伝える言葉をもっていると、コミュニケーションが豊かになると思うわ。」
言葉は人の心をつくります。「心」の栄養源である「言葉」の力をぜひ一人ひとりの子どもたちに身につけてほしいと願っています。